まちニュース

真っ赤に、おいしく

イチゴ狩り、シーズンイン

いわき市にイチゴ狩りシーズンが到来。真っ赤で甘い果実を求め、各観光イチゴ園には休日を中心に、大勢の人たちが訪れている。

田人町、田人観光いちご園（蛭田秀美代表）は、三連棟のビニールハウス内で品種「章姫」を栽培。円錐（すい）形の美しい形、実の柔らかさ、酸味の少なさが特徴で、子どもでも食べやすい。今年は病気などの問題もなく生育し、例年同様においしく実ったという。

イチゴ狩りを楽しむ家族連れ＝田人観光いちご園

一月中旬には、訪れた家族連れが高さ約百三十センチの培地に手を伸ばし、おいしそうに頬張っていた。

四十分食べ放題で、料金は中学生以上が千五百円、小学生が千四百円、三歳以上が千百円、二歳までが無料。営業時間は、午前十時から午後四時まで。火、水曜定休。人気のため、事前問い合わせが重要。

連絡は、同園（電話六九―二四四八）まで。

コンカレ 53人が卒業研究で成果を発表する

泉町、いわきコンピュータ・カレッジ（田口周二校長）は二月二日、いわきアリオス小劇場で、「令和五年度卒業研究発表会」を開き、三月末に卒業見込みの五十三人が十二チームに分かれ、研究成果を発表した。

研究の中で、小名浜などの観光スポットで、スマートフォンのカメラをかざすと表示されるAR（拡張現実）技術を活用したスタンプラリーが楽しめる独自アプリを、昨年から引き続き開発、拡充。小名浜に加え、常磐湯本地域もエリアとし、総合ホームページも公開するなど、複数年にわたっての継続研究も披露した。

また、農業のIT（情報技術）化推進を企図した、植物支援アプリを開発。育成状況を二十四時間体制で監視可能な機器構成を安価に組める工夫。農家などが導入しやすい環境作りまで含めて検証を重ねていた。

常磐湯本地域もARスタンプラリーに追加された継続研究

田口校長は、「開発の見える化を行い、目標とのギャップをまとめることが出来たのは大きな成果」と、総評を述べた。

令和四年度まで、十年連続で就職率一〇〇％を達成中の同校では、即戦力のIT人財を育成するノウハウを、研究発表を通じて広めていくという。

マルトと東日大共催 外国にルーツの25人がスピコン

マルト（安島浩社長）と東日本国際大学は先ごろ、市文化センター大ホールで「外国にルーツを持つ市民によるスピーチコンテスト」を開いた。

同コンテストは、市内で生活する約三千人の「外国にルーツを持つ人」を知ってもらい、互いに協力し合って楽しい暮らしができるいわき市にすることを目的に開かれた。

十三カ国、二十五人が参加し、小、中学生、高専生、大学生、社会人らが、「日本での忘れられない体験」をテーマに三分間のスピーチを披露した。

震災でいわきを知り、留学のため来日した、韓国にルーツを持つ男性は、交通事故の際、日本語が話せず苦労し、その時に助けてくれた友人女性と後に結婚した体験談を滑らかな日本語で講演。

市内の小学校に通う男児は、同じクラス内に「渡辺さん」が七人もいて困ったという、いわきならではの経験を話し、会場からは大きな笑いが起こっていた。

体験談と将来の夢など、日本語スピーチを披露する参加者